自然を語る会

『沈黙の春』第８章・読書会

2023 年 6 月 17 日（土）
場所：Zoom ＋ 飯田橋ボランティアセンター
参加者：21 名
担当者：渡辺浩隆

第８章は「そして、鳥は鳴かず」、虫を殺すための化学薬品の大量使用が昆虫や鳥たちの大量死へとつながった事が、カーソンの叙述的な表現に響いて痛々しい。「**薬品スプレーは昆虫ばかりでなく、昆虫の第一の敵、鳥をいためつける。あとになって昆虫が再発生することになれば、（中略）それを押えるべき鳥たちは、もはやどこにもいない。**」

この人間活動は現代に連綿と続いていて、問題は以前よりむしろ深刻化し、世界的な環境破壊や絶滅危惧種の増加へとつながっているのが残念でなりません。

しかし、これらに対する世界的な動きも活発化していて、「**ネイチャー・ポジティブ**」＝自然を回復軌道に乗せてプラスに転じさせる、という新たな取り組みが広がりつつあります。COP15 の「**昆明・モントリオール生物多様性枠組**」では、「企業に生物多様性・自然に与える影響やリスクを把握して開示を求める」という内容が盛り込まれたことは大きな前進と言って良いのではないでしょうか。

それでは、これからの私たちに何ができるか？という課題について、読書会で活発な意見交換・議論を展開しました。エシカル「倫理的=環境保全や社会貢献」という観点からオーガニックなものの購入、無農薬農法やカルガモ農法といった自然農法の実践がいかに難しいか、農家の方にとっては手間も暇もかかり、しかも割高になってしまうというジレンマを抱え、それらの問題が簡単には解決できないという一面が見えてきました。まさに「あちらを立てれば、こちらが立たない」という状況です。

活発な議論は、そこから化学薬品のいたる所での使用や電化製品から発生する電磁波の氾濫が、化学物質過敏症や電磁波過敏症をひき起こしているという、切実な問題にも触れました。この件に限りませんが、利害関係者による事実の黙殺や発信者へのバッシングがあるというのは、非常にショッキングと言わざるを得ません。

また、便利な消費社会が見えないところで大きな環境破壊を引き起こしている事にも触れました。アブラヤシから採れるパーム油の消費拡大が熱帯ジャングルの消滅、生物多様性の消失へとつながっている等々・・・　議論は尽きませんでした。

（文責　渡辺）